

学 長 定 例 記 者 会 見 要 項

日 時：平成27年3月24日(火) 11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

発 表 事 項

1. 新入生向けレシピア集「食環ごはん。」を作成しました
2. 山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について
3. JST 平成 27 年度「次世代科学者養成プログラム」に「山形県サイエンスエリート養成プログラム」が採択されました

お 知 ら せ

1. 平成 27 年度 小白川キャンパス「トワイライト講座」の受講生募集

(参 考)

- 次回の学長定例記者会見(予定)

日 時：平成27年4月2日(木)11:00～11:30

場 所：事務局第二会議室(小白川キャンパス、事務局4階)

平成27年3月24日
山形大学

新入生向けレシピ集「食環ごはん。」を作成しました

地域教育文化学部食環境デザインコース有志で、新入生向けレシピ集「食環ごはん。」を作成。新入生のみなさんの生活が充実したものになるためのお手伝いが出来ればとの考えで「少ない材料で簡単に作れる」をコンセプトに、レシピ作成から写真撮影まで学生で行いました。

新入生には、4月のオリエンテーションで配付予定。今後は大学生だけではなく、地域住民の方々に向けても発信していきたいと考えています。

◆経緯

地域教育文化学部食環境デザインコース有志(4年生9名、3年生6名)は、今年度、学生主体で企画・運営するプロジェクトに大学が支援を行う「山形大学・元気プロジェクト」に採択され、新入生にむけたレシピ集を作成しました。昨年度は新入生向けレシピ集および妊娠期・授乳期の母親に向けたレシピ集を作成・配布し、好評を得ました。

今年度は、タイトルを「食環ごはん。」とし、「少ない材料で簡単に作れる」をコンセプトに、新入生にむけた2週間分のレシピ及び山形の郷土料理・特産品を利用したレシピ・コラムで構成しています。新入生に向けた2週間分のレシピは4年生が、山形の郷土料理・特産品を利用したレシピとコラムは3年生が担当しました。また、今回は、レシピ作成の他に、写真撮影も学生で行いました。

◆レシピ集概要

レシピ集は、季節を問わず購入可能な食材、日持ち・冷凍保存が可能な食材を常備野菜とし、常備野菜+αで調理出来るレシピになっています。

また、惣菜を使ったアレンジレシピや冷凍野菜を使ったレシピなど、時間のない大学生にも簡単に作れるレシピ集になっています。規則正しい生活には、まず、食生活から、ということで、はじめて一人暮らしをする方が多い新入生の日々の生活が乱れてしまわないよう、栄養バランスも考えています。

今後は、大学生だけでなく、地域住民の方々にもむけても発信していきたいと考えています。

(お問合せ先)
地域教育文化学部
食環境デザインコース
三原研究室
電話 023-628-4420

山形大学、山形を元気に
～元気プロジェクト～

食環ごはん。

山形大学 食環境デザインコース
元気プロジェクト有志一同

平成27年3月24日

山形大学

山形大学・山形県による土壌環境放射性物質の共同調査実施結果について

山形大学は、山形県と共同で平成24年度から山形県内の土壌環境放射性物質の定点調査を行っています。この度、今年度までの定点調査結果をまとめてご報告します。

☆背景

福島第一原発事故に伴う県内における放射性物質の沈着状況の基礎データを押さえておくことは、今後の山形県の環境を考える上で重要なことです。

そのため、山形大学は、山形県と共同で土壌環境放射性物質の分布状況の調査を行っています。

☆調査期間

平成24年度から平成26年度までの3年間

☆調査方法

県内を5キロメッシュに区切り調査地点を定め、地表面からの深さ(0~5cm、5~10cm)の二層の土壌をサンプリングし、測定分析を行っています。

山形県が土壌サンプリングを担当し、山形大学が土壌サンプルの測定分析を行っています。

☆調査結果

山形県内の定点調査地点(30地点、3年継続は8地点)について、土壌中放射性セシウムの濃度推移を調べた。

- ・ 庄内地区は、不検出ないし低いレベルであった。
- ・ 最上地区は、1定点が平成24年の116 Bq/kg から平成26年の55 Bq/kg に減少しており、その他の定点は不検出ないし低いレベルであった。
- ・ 村山地区は、平成24年の各定点の平均濃度235 Bq/kg から平成26年の平均濃度153 Bq/kg に減少した。
- ・ 置賜地区は、平成24年の各定点の平均濃度214 Bq/kg から平成26年の平均濃度59 Bq/kg に減少した。
- ・ 3年間の濃度変化は地点により異なっていた。

(お問い合わせ)

山形大学 企画部プロジェクト教員 教授 櫻井 敬久

電話：023(628)4553

平成27年3月24日

山形大学

JST平成27年度「次世代科学者養成プログラム」に 「山形県サイエンスエリート養成プログラム」が採択されました

科学技術振興機構（JST）の平成27年度「次世代科学者養成プログラム」に、「山形県サイエンスエリート養成プログラム（ヤマガタサイエンスアカデミー）」が採択されました。これは、山形大学（理学部と地域教育文化学部）と山形県教育委員会が中心になり、県内の科学系機関と連携し、中学生を対象に理系人材を育成するプログラムです。

1 企画の概要

県内の中学生を選抜し、持続可能な社会をキーワードに、科学を基盤とする未来を担う人材育成プログラムを開発する。プログラムにおける実験等は、大学・連携機関のリソースを単に体験させるのではなく、学校現場と協力し、履修プログラムの構築を行い、連続して履修することによる科学の力をつけることを目標とする。

最終的に科学の甲子園ジュニアの全国大会・日本学生科学賞の全国大会発表・各科学グランプリ受験を目標とする。

2 背景

- (1) 人口の減少により山形県の産業の担い手を育成することが課題となってきた。また、産業界を支える新たな技術や産業を生み出す創造力豊かな理系人材の育成も課題としてあげられる。
- (2) 大学や県内の科学機関では、子供向けの科学講座が数多く開催されているが、理科好きになるための導入的な内容でかつ単発的なものがほとんどであり、科学的な思考の育成につながる継続的な講座が少ない。
- (3) 中学生になると部活動所属により、講座に参加する機会が激減する。また、理科系の部活動を持つ中学校は限られている。
- (4) 小学生の高学年から継続性を持って参加する仕組みが必要である。

※次世代科学者育成プログラム

将来有望な科学技術人材の育成を目的として、理数系分野に卓越した中学生などの意欲や能力を、さらに伸ばすことに重点を置いた教育プログラムの実施や開発を支援するもの。大学などが主に中学校の生徒（小学校第5・6学年の児童を含むことも可能）を対象に、連携機関、特に教育委員会の主体的な参画を得て、理数分野に関して高い意欲・能力を持つ生徒などを発掘し、さらに伸ばしていく体系的教育プログラムの開発に向けた取り組みを支援する。

（1件あたりの支援費：400万円 支援期間：1年）

<http://www.jst.go.jp/pr/info/info1089/index.html>

（お問い合わせ）
理学部 教授 栗山 恭直
電話：023-628-4506
090-1373-9499

山形サイエンスエリート養成プログラム

ヤマガタサイエンスアカデミー

連携機関との協働によるプログラム構築

- 県教育委員会、山形市教育委員会との連携による受講生募集
- 県教育センター、山形市学習センター、中学校野科部会との協働による実施カリキュラム開発

- 地域ネットワークによるプログラム実施に関するリソース等の提供
・ 県立博物館・産業科学館・加茂水族館・県工業戦略技術振興課

大学・研究機関リソースによる先進的なプログラム実施

学生メンターを活用した個人に応じた指導

理学部 + 地域教育文化学部

地域リソースを活用した研究課題の設定

アドバンスI

目指す力の充実

グループによる課題研究

「ベーシック」で身につけた力の
実践応用

「ベーシック生」に対するピアサポート

年間10回程度の講座

目指す力の基礎を育成

- 問題を設定し解決する力、科学を定量的に考察する力
- 新たな価値を主導・想像する力・科学的な問題を見出し、科学的に解決する力
- 対人関係能力・科学的に物事を伝える力
- 学びに向かう力・自己強化
- 持続可能な社会づくりに関わる実践力・協調性

ベーシック

大学の設備を活用した探究型実験実習

山形県の豊かな自然を舞台とするセミナー

山形サイエンスエリート



アドバンスII

日本学生科学賞への挑戦

個人研究
所属校での研究

グループ研究

活動成果発表会

1年間の成果を発表し、相互理解を深める。

目指す力の更なる発展

個人に応じた課題研究

科学の甲子園への挑戦

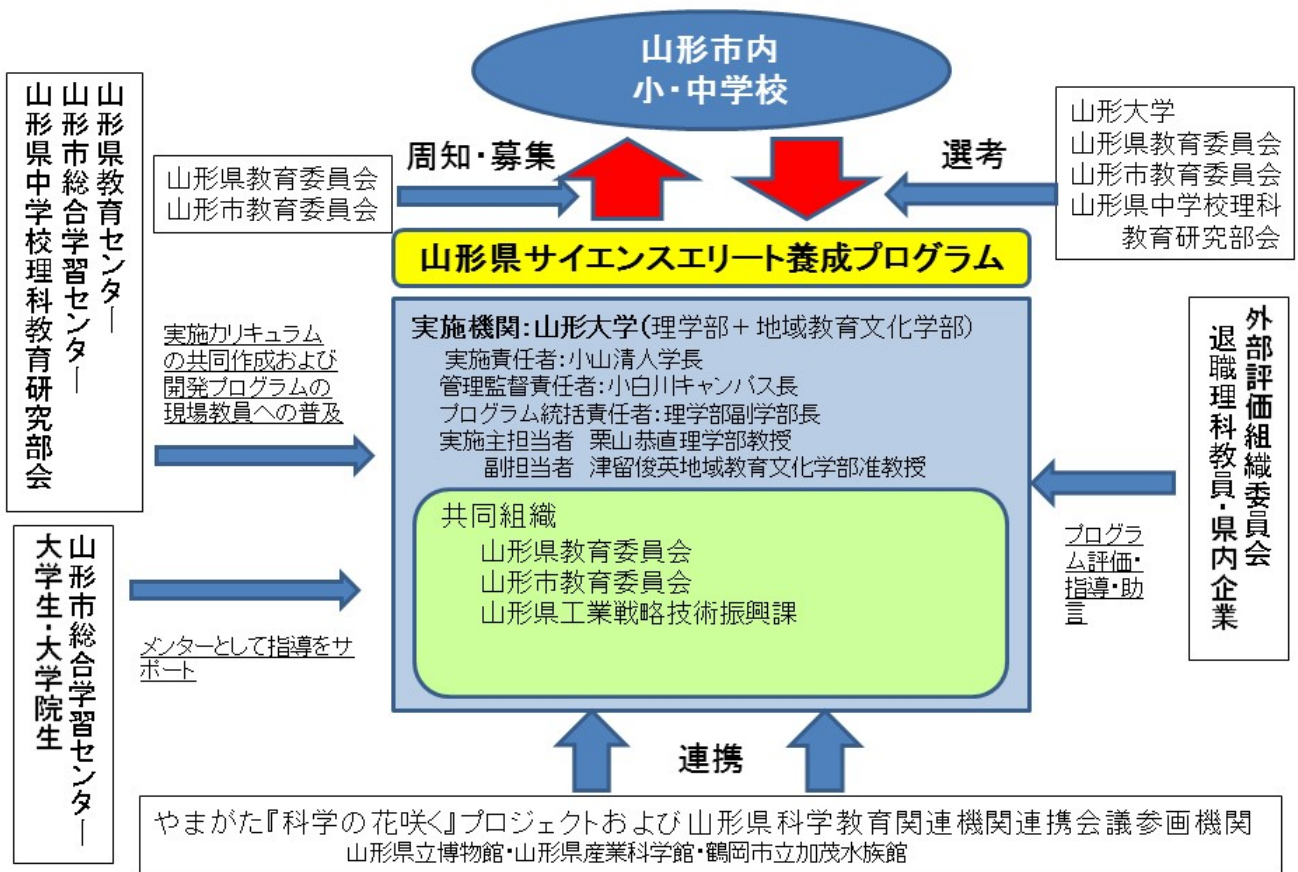
各中学校チームでの出場

受講生を各校のリーダーとして育成

受講生による選抜チーム

身につけた力の応用実践

- 各段階での能力獲得の進捗状況をサポートフォロワーにより把握し、個に応じた支援



見学、視察等体験実習

平成 27 年 3 月 24 日
山 形 大 学

*詳細は別添の資料をご覧ください。

1. 平成27年度 小白川キャンパス「トワイライト講座」の受講生募集

小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を、高校生の皆さんに「トワイライト開放講座」として、広く開放します。理学部の授業科目は一般市民の方にも開放します。受講料は無料です。

◆募集締切：前期開講分（平成27年4月～平成27年7月）

4月分 平成27年4月10日（金）

5月以降分 平成27年4月24日（金）

後期開講分（平成27年10月～平成28年2月）

平成27年9月18日（金）

◆対象者：高校生（理学部の講座は、一般市民の方も歓迎）

（受入れ可能人数を超えたときは、受講をお断りする場合があります。）

◆場 所：小白川キャンパス内の各講義室（それぞれ指示された場所）

◆開講時間帯：午後4時30分から午後6時まで

平成27年度 山形大学小白川キャンパス 「トワイライト開放講座」の受講生募集

山形大学小白川キャンパスにある人文学部、地域教育文化学部及び理学部が開講している授業科目を高校生の皆さんにも「トワイライト開放講座」として、広く開放いたします。（理学部の授業科目は一般市民の方にも開放します。）

この機会に、山形大学キャンパスで大学生と一緒にさまざまな講義を体験してみましよう！



山形大学では、次の要領により受講生を募集いたします。

◆ 募集期間

前期開講分（平成27年4月～平成27年7月）

…募集締切 4月分 平成27年4月10日(金)
5月以降分 平成27年4月24日(金)

後期開講分（平成27年10月～平成28年2月）

…募集締切 平成27年9月18日(金)

* 募集の締切り終了後においても、受講生数の調整が可能であれば受け付けられますので、担当窓口まで御相談ください。

◆ 対象者 高校生

理学部の講座は、一般市民の方も歓迎。

（受入れ可能人数を超えたときは、受講をお断りする場合があります。）

◆ 受講料 「無料」 です。

◆ 場 所

山形大学小白川キャンパス内の各講義室（それぞれ指示された場所）

◆ 開講する時間帯

開講時間は、所定日の「午後4時30分～午後6時」です。

なお、遅刻しないようご留意願います。

◆ アクセス方法

山形駅発→小白川キャンパス行の100円シャトルバスが出ています。

山形大学HP→アクセス から確認してください。

◇ 開講時間帯・場所及び受講申込みの方法は裏面をご覧ください。 ◇